

### <福祉作業所との交流①>

本校に隣接する福祉作業所は、知的障がいを持つ方が通所されている施設である。これまで交流がなく、教員にも児童にも関心を持たれていない存在であった。昨年度、作業所を所管している立川市社会福祉協議会の方が校長室に来室された際、作業所の紹介があった。地域貢献の場を求めている学校と地域交流の場を求めている社会福祉協議会の思惑が合致し、今年度からの交流を模索していくこととなった。

#### (1) 交流の内容

##### ○福祉作業所の見学 4月24日(月)

4年生の学級担任が校長と共に福祉作業所を訪問し、活動や施設の様子を拝見させていただいた。今後の展開について、福祉協議会の方と率直な意見交換を行った。「交流することで、子どもたちが違和感を持ってもいい。まず、そこから始めたい。」との言葉が印象的であり、ありがたいことだと思った。同じ町に住む住民として、顔見知りになることに取り組んでいく。

##### ○交流1回目 7月12日(水)

福祉協議会の方2名と障がいを持った方2名が来校された。交流内容は、以下となる。

- ・栄福祉作業所の紹介
- ・「障がい」についての説明
- ・作業所の仕事内容の紹介と体験活動
- ・「カフェはあもにい(市役所内)」の紹介と仕事の体験活動

4年生の児童は、楽しく和やかに交流していた。また、「作業所が何をしているのか知れて、すっきりした。」という感想を述べていた。

#### (2) 今後の予定と新たな課題

2学期以降の交流は、「校庭の草むしり交流」「歌とダンスの発表」を予定している。

福祉作業所との交流は、取り組み始めたばかりで、手探り状態である。今年度は、教師主導の交流であるが、体験を積み重ね、児童主体の交流にしていく。相手は大人であり、自尊心を傷つけるようなことがあってはならない。教員や児童の反応や言動に配慮が求められる。また、作業所の広さの関係で、1学級ずつであっても、児童が訪問することが難しい。そのため、学校に招待しての交流となる。障がいを持つ方の安全な移動への配慮も必要となり、ボランティアを募るなどの工夫が必要となる。



(福祉作業所の紹介・障がいの説明)



(カフェ体験)